ハロハロ 16

国土交通省顧問
谷口　博昭

パートナーシップ再構築

新しい世紀も11年目に入りました。デフレや円高などで雇用をはじめ経済不安が長引き「国の将来ビジョンが見えない」などと言われますが、新たな年の始まりこそ、未来の国の形を再考する好機だと思います。

新世紀のライフスタイルや産業構造に相応しい社会基盤の整備を進めなければなりませんが、厳しい財政事情から、かつてのような公共投資は難しいと想います。しかし、国際競争が激化しグローバル化が進む中、日本だけが委縮していては世界に後れます。

少子高齢化や人口減少を抱えて難しい課題ですが、ここを突破するには産学官のパートナーシップを再構築するしかないと考えています。

私の家は真言宗で、小さい頃から曼荼羅を見ていました。大日如来を中心に生きとし生けるものが重層的な世界を織りなしている構図は、今思えば「共生」の思想の可視化のように感じます。

私がキーワードと思うパートナーシップは、政と官、国と地方、官と民などの対立構造でなく、役割分担を明確にした曼荼羅世界のような新たな「共生」の在り方です。大きな価値観を共有し、長期的なインフラ整備を考えたいものです。

「すべての道はローマに通ず」と言われたローマ帝国は、地中海沿岸に今でいう高速道路を8万キロ建設しました。国を発展させるのは国家の仕事で、道路は国家発展の基礎です。日本は「道の文化」と言われ、街道を中心に地域社会を形成し、発展してきました。

今でも道路整備の必要性が高い地域は沢山あります。高規格の幹線道路整備は、地域格差是正にも重要な施策です。希望の持てる日本を取り戻すため、新たな10年の国土のあり方、その基盤造りを熟考しましょう。

◇　◇

新年を機に、技監時代に連載した当コラムを再開します。事務次官在任中は休載しましたが、新たな視点で国土の未来を見つめ直すコラムを、ぜひご愛読ください。